

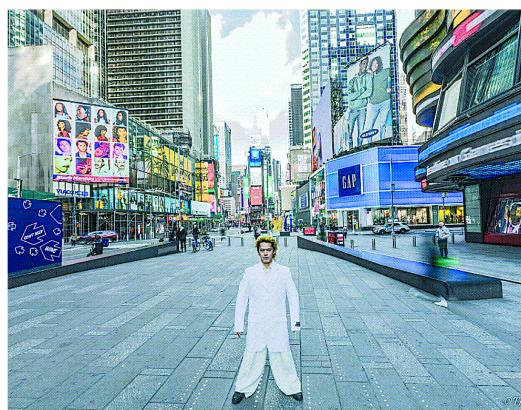
グローバルにいがた



from NY

中澤 利彦さん

=新潟市西区出身=

ニューヨーク・タイムズ
スクエアにて

中澤 利彦さん

2010年に渡米後、プロダンサーとして日本を行き来しています。日本では主に学校関係を中心にも夢を伝える講演活動をしています。6月に日本に一時帰国する予定でしたが、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、大幅に予定が変更になりました。この文章を書いている時点では、まだニューヨークにいます。

有名なタイムズスクエアのブロードウェイ劇場も、年内いっぱい閉鎖になりました。世界的に有名なサーカス劇團シルク・ドゥ・ソレイユも破産申請しました。

そんな時、私たちに求められるものって何だろう? 自粛・外出禁止令が出されている間にあらためて考えてみます。

他の業種と同様、エンターテインメント業界も厳しい状況が続いています。

そんな時に、私たちに求められるものって何だろう?

それでも、ダンスなんなくていい中で、エンターテインメントはそれ以外の力であります。だから、ダンスなんなくていい中で、エンターテインメントはそれ以外の力であります。

なかつたら、ただ生きているだけ死んでいないだけの状態ではないだろうか?

誰にも、一つは好きなことがあるはずです。好きなことがあるのにできない人生ほど、つらく、苦しいことはない。

最近ではオンラインでの講演やパフォーマンスも行っています。新潟空港から、NYのJFK(ジョン・エフ・ケネディ空港)まで直線距離で約1万キロ。日本との時差が13時間のNYにおいても、オンラインでは1秒でつながることができます。

それでも、ダンスをするためには、しゃがむことが必要です。世界の好きな場所で好きなことをして生きていく

(中澤さんは1985年生まれ。プロダンサーとして全米のテレビ番組にも出演するなど活躍の幅を広げています)

国際交流拠点から



第1月曜掲載

新潟日報社が開設した米ニューヨーク(NY)、ブラジル・サンパウロ、中国・上海、欧州(パリ)の国際交流拠点などを通じ、海外で暮らす本県関係者から現地の様子をリポートしてもらいまして。また、新潟日報ホームページ「モア」にも掲載し、感想や意見を受け付けています。

from NY サンパウロ



佐々木 晴子さん

新潟市秋葉区出身



自宅ベランダから撮ったサンパウロ市内の様子

新型コロナウイルス感染の日

も早い終息が待たれる

私が住むサンパウロで新型コロナウイルスの感染拡大が始まつたのは、ちょうどオフの二ヶ月が終わつた月でした。あいさつの抱擁も、頬へのキスも濃厚で、何かと友人や家族と集まるのが好きなオフでも、ウイルス禍にあっても社会的距離をとる人は多く一部。もともと使う習慣のないマスクも義務付になる前は、早めにマスクを使ったほうが逆に感染者ではないかと目立つてしまつ始

は、ウイルス禍にあっても社会

スも濃厚で、何かと友人や家族と集まるのが好きなオフでも、ウイルス禍にあっても社会

的距離をとる人は多く一部。もともと使う習慣のないマスクも義務付になる前は、早めにマスクを使つたほうが逆に感染者ではないかと目立つてしまつ始

は、ウイルス禍にあっても社会

<p